学校における福祉教育の取組に関する調査結果（集計）

Ｑ１
　平成 28 年度から今年度において、地域の社会福祉施設等と連携しながら、児童・生徒が支援を受ける当事者等と交流する取組を行いましたか？
Ｑ２
１　「はい」の場合、具体的な取組内容を記入してください。
２　「いいえ」の場合、現在取組を行っていない主な理由を以下から選んで回答してください。
①手近な場所に施設等がない（施設までの交通手段がない）
②交流したいが、施設等と連携する段取等が分からない。
③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。
④その他

回答	はい　７８校	いいえ　１校
主な取組内容	１　全校児童対象の聴覚障害者・通訳者による講演会。「聞こえない」ということや困ること、手話やコミュニケーションの取り方などについての講演後、全校児童により手話付きの歌をプレゼント。 ２　養護学校等からそれぞれ居住地交流として学校へ招き，音楽の授業や図工の授業を通して交流した。 ３　特別養護老人ホームに伺い一緒にゲームをしたり折り紙をしたりと交流活動を続けている。 ４　お茶のみサロンと称して、地域のお年寄りに、運動会で行った組み体操の一部やダンスを見ていただいたり、グループごとに分かれて、風船バレーボール・福笑い・背文字クイズなどを行い、毎年交流している。・ ５　音楽会に地域のお年寄りを招待して、発表の合間に肩たたきや簡単なゲームを行い、毎年交流している。 ６　３年生が宅老所へ行き、利用者のお年寄りと交流を行っている。 ７　認知症サポーター講座を受講し、認知症についての理解を深める活動に取り組んでいる。 ８　ボランティア委員会の生徒による施設訪問、交流会 ９　老人会で集めたタオルを特支学級生徒が雑巾に仕上げ、老人会で福祉施設等に配布。	
「いいえ」の理由	③他の授業や学校行事等で実施する時間的余裕がない。	

Ｑ３

取組の実施による効果、期待することをお聞かせください。

1　障害者の方の苦労や生活の仕方を直接聴いたり、様子を見たりすることで、知らないことを「知る」ことができ、それによって、自分から関わってみたい・関わってみようという気持ちになる機会を得た。来年のパラリンピックも良い機会で、健常者も障害者もみんな同じように生活し、お互い苦手な部分を補ったり助け合ったりして生きていることを理解していけたらと思う。
2　地域貢献がねらいである。大したことはできないが、小学生でも交流を通して人の役に立てることを考えるきっかけとしたい。
3　交流することで、個性を理解したり、自分も前向きに努力していこうとしたりすることが期待できる。
4　課題解決能力、社会性、自尊心等を高める。
5　学級経営の一環として、活動を通してまとまって欲しい。
6　継続して交流することで，障害を持った児童に対する理解が深まっていくと思われる。
7　自分の住んでいる地域にも様々な友だちがいることを知り，より身近に感じたり，交流することで助け合ったり思いやったりする気持ちが持てるとよい。
8　お年寄りの方々も自分たちも共に楽しめることを考え、企画・実施する。
9　相手のことを思いやることができる。
10　はじめは緊張していた子ども達が、回を重ねるごとにおばあさんやおじいさんと遊べることを楽しみに思えるようになった。
11　子ども達は、喜んでもらったり、かわいがってくれるのがうれしくて、やさしい気持ちを育むことができた。
12　一緒に活動を続けていく中で、名前を覚えてもらって嬉しいと子どもたちも喜んでいた。お年　寄りの方々や小さい子どもとの接し方など関わり方も回数を重ねる度に変わって行く様子がみられる。
13　同じ地区内に居住する養護学校の児童と親睦を図ることをねらいとして実施し，交流を重ねるごとにお互いに手を取りあって活動していく姿が見られ，自然な関わりで活動できるようになってきた。今後も交流の取組を継続して，ともに成長していくことを期待しています。
14　一緒に遊んだり関わったりすることで、相手のことを理解し、一緒に出来ることを考え、共に楽しむ一緒に楽しめることを大事にしている。実際に関わることで、相手のことを考え、関わり方を学んでいけるように願っている。
15　普段ふれあうことのないお年寄りと、自由に交流することにより、コミュニケーション能力が向上することや、他者に思いやりを持って関わること、児童同士が計画を相談し、準備を進めることにより、協力することや自主性が向上することを狙いとしており、また、その効果が出てきているように感じられる。

16　子どもたちがお年寄りの方々と仲良くなるには、具体的にどういう気持ちで、どういう接し方をしていったらよいか、課題意識をもって交流し、人としてのコミュニケーションで大事なことは何かを気づかせる効果を期待している。
17　２年目以上の学級ではお互いに様子も分かり交流もし易い。担任同士の話も早く進む様子。初年度の学級でもお互いの学校の児童がお互いの様子を知って楽しみながら交流できている様子。発達段階の早い段階から、継続的に交流がある事から、ノーマライゼーションの考え方が育まれやすいと考えられる。
18　他校の児童生徒と関わる事で普段の学校生活では学べない人との関わり方を知る機会となっている。
19　お年寄りが自分たちと接することで元気になる実感して甲斐を感じたり，日頃，積極的に自分を表現できない児童，友だちとかかわれない児童がお年寄りと接するなかで，人とのかかわりの温かさを感じたりしている様子がみられる。人とのかかわりの中で，社会に貢献することの意義をかんじたり，自己肯定感を高めたりできる活動であると感じる。
20　毎年、子ども達もまた寿会のみなさんも楽しみにしている交流であり、地域のお年寄りと親しくなったり、また子ども達の顔や名前を地域の人に覚えてもらったりするよい機会となっている。
21　異なった世代の方や障害を持つ方との交流により、思いやりや感謝の心が育つことや、他者理解の手がかりをつかむことを期待している。
22　児童にとっては，多様な状況にある方とのふれあいを通して、いろんな方がいることを知ったり、思いやりの心を育てることを願っている。
23　高齢者や障害のある方など様々な人との関わりを深め、思いやりや共に生きていくという考えを育てる。目の不自由な方及び共に生きるボランティアの方々との活動を通して児童が、よりよいコミュニケーションや様々な人々との関わりを考えることができる。
24　子どもたちの中に思いやりの心が育まれ、誰にでも優しく接することができるようになる。また、子どもたちが自分のよさに気づき、自身の可能性を拓くことにもつながっている。
25　お年寄りの方々との交流活動を通し，相手の存在を思いやり，お互いに寄り添いながら，心)を通い合わせることができる喜(よろこ)びを感(かん)じるとともに，お年寄りの思いや生き方に触れ，豊かな心を育む。
26　体験学習をしたことは生徒にとってインパクトが大きく、生徒の中に福祉や障害についての意識が高まった。また、バリアフリー探し等をしたことから、生徒が街の中で気づく目を持ち、自分にできることを考え、気づいて行動できるようになっていってほしいと期待している。
27　障がい福祉や老人福祉への理解を進め、社会の一員として自らができる活動を実践していこうという意欲をもつ。
28　障がいのある方や老人と接することで、正しい理解を促進する。
29　障害のある方や高齢者など、様々な人が当たり前に暮らしている社会を感じ、それぞれが気持ちよく関わり合って共にいることを学べる。

30　利用者さんと楽しく交流することを通して、年長者を敬う心や、感謝の気持ちを育てる。
31　地域に根ざしたキャリア教育の一環として、地域にある職場を訪問することにより、身近な職場について新たな価値を感じさせる。
32　地域の社会福祉施設でのボランティア活動を通して、地域との人との関わりを深め、ボランティア活動に関心を持ち、活動に参加しようとする心を養う。
33　車椅子体験や老人疑似体験を行うことにより、高齢者の立場にたち、声の大きさを工夫したり、耳元で話したりするなどの相手意識をもつことができるようになる。
34　地域のお年寄りと交流することにより、思いやりの心を育てることができる。
35　地域の昔の様子を知ることができ、地域への愛着を持つことができる。
36　高齢者福祉施設の社会的な役割について理解することができる。
37　施設で働いている方の様子を見たりお話をお聞きしたりして、職業観を広げることができる。
38　地域に暮らすお年寄りと話しをしたり、奉仕作業を行ったりすることを通して、相手の立場に立って考え実践する力が養われる。
39　高齢者に喜んでもらおうと高齢者が知っていると思われる遊びや歌を練習し、普段ではあまり交流のない世代とも話ができる。
40　高齢者施設では、交流に笑顔があふれ、子ども達の歌に泣いている方や一緒に歌う方もいて温かい時間が良い。

Ｑ４

取組を実施する際に難しいと感じる点など課題があればお聞かせください。

1　カリキュラムへの組み込み
2　交流先と日程を合わせていくこと。
3　連絡調整。視覚支援の配慮の在り方。
4　実施期日，時間等の調整に時間がかかってしまうことがある。
5　学校の中で学んだことを施設への訪問等につなげたいが、施設との連携や段取りの中に難しさを感じる。
6　活動の日程合わせ、運動会練習時の移動など児童への負担が課題。
7　児童会の活動で行っているため、準備時間と施設へ行くまでの移動時間と交流時間の確保が難しい。
8　学校行事が多くあり、日程の調整が難しい。感染症の流行が始まる秋頃からの交流の予定が中止になってしまい、予定通りの取り組みができないことがある。
9　お互いの日程調整や打ち合わせや準備の時間等、当日を迎えるまで準備が必要であり、時間もかかる。児童がスムーズに動くためには、時間の確保が難しい。
10　時期の調整。児童の安全面を考慮した十分な引率職員の数を確保すること。
11　学年で取り組みたかったが、近年、授業の遅れを心配する学級が多くあり、足並みをそろえて取り組むことができなかった。
12　本校としても、相手の施設としても日常の活動がある中で、直接の担当者同士がそれぞれの実情を把握しながら連絡を取り合う（時間的な部分も含めて）のが難しい。
13　交流の日程調整が必要となる。授業時数の関係で交流回数が限られる。
14　子ども達はお年寄りとの交流が大好きで、もっと訪問したいと思っているが、他教科や行事の関係もあり、なかなか時間が確保できない。
15　限られた時間の中でやらなければならないので、思うことができないこともある。
16　交流に向けて行う練習等の時数の確保が難しい。
17　交流先のご都合のいい時間帯に行くことになるので、それが午後になるため、時間の融通が利かない点がある。
18　児童会活動の時間内に、福祉施設等へ訪問をして交流することが難しい。
19　交流する時間を調整して生み出すことに課題を感じる。
20　十分な活動時間の確保。
21　移動に利用するバス代金を確保すること。
22　施設から出された要望に対して準備期間に充てる時間の確保が難しく、十分な活動をすることができない場合がある。

23　行き帰りの交通手段（徒歩なので時間がかかる。天候の影響も受ける。）

24　子どもたちが障害を理解すること。準備が大変。スポーツ以外のいろいろな取り組みをしてみたいが、身近に施設等がない。交通手段もない。
25　交流によって得ることは多いが、費用がかかること、学校の授業の中で日程の調節（まとまった準備時間をとる、臨機応変に対応する）が難しい。
26　本校が山間地に位置しているため、交流先へはタクシーでの移動となり、高額な交通費が必要となる。
27　デマンドバスで移動するためバスの運行する日が決まっていて日程が決めづらい。また、バス代がかかる。
28　学校と施設との距離が2㎞ほどあるため、移動に時間がかかってしまう。炎天下や厳冬期など交通車両を手配したいが、費用的にむずかしい。
29　車いす体験をする際に、車いすを何往復もしてお借りしに行くことが大変だと感じた。
30　児童会の時間を利用しているため、時間が限られている。移動方法を工夫したい。
31　移動に少々時間がかかるので、１回の交流で２時間以上費やす。

32　お茶のみサロンの会場が地域のお寺から学校に移ったが、お昼もいっしょに食べたので準備がとても大変であった。

33　秋から冬にかけては、インフルエンザ等の流行により、交流ができないことがあった。
34　老人ホームとの交流は冬に計画していることが多く、インフルエンザや風邪などの流行でできないこともあるので、交流の時期見を直したい。
35　委員会活動の時間がとりやすい冬期には，インフルエンザの流行などが考えられ、交流は難しい。１学期の忙しい時期での交流ということで、準備の時間がとりにくい面がある。

36　手話教室等を複数回実施したいが、講師料・通訳料等がかかるため実施できない。
37　講師の方を探すことが難しい。また、学年によっての理解度も違うので、分散して講演をしてもらったり疑似体験させてもらったりする方法も考えるが、校内での時間の余裕もなく、もっと深く関わる方法を模索中。

38　老人ホームに入居している方が重篤（認知症等）な方が多く、交流の内容が難しい。
39　会話を伴う交流の際、子どもたちの声では聞き取ってもらえないこともあり、会話が成り立たないことがある。
40　すべての方が好意的に交流をしてくださるわけではない。

41　継続することが大切。交流することだけで終わってしまうように思うこと。

42　担任替え、クラス替えがあることで、継続して関わることが難しい。
43　交流先の事業所が学校から地理的に遠いところにあるため、年に２回の交流のみになってしまっている。
44　時間的なことから、施設訪問が年間１～２回程度になってしまっており、より深まった交流になりにくい。
45　時間を設定するのが難しい時期もあり、何回も訪問したいが思うようにならない。交通手段等も課題だと感じる。
46　発表などの機会はつくっているが，交流して，よさを感じた児童がその実感を，全校に伝え，広めていくことが難しい。個人の経験に留まってしまう。
47　学年生徒２００名に対し、できるだけ個別で関わりがもてるようにしたいが、訪問できる施設に限りがある。（交通費を出すことができないので、遠くへは行けない）
48　大規模校なので、学年の全生徒が同時に活動することが難しい。
49　学年を追ってカリキュラムを組み、３年間で見通しを持って取り組みができるといい。

50　交流先の方が生け花などを持参しており、学校での謝礼が十分ではないと感じる。

51　利用者の方と直接会話をしたり遊んだりする交流もできるとよい。
52　交流する相手によって内容の検討が重要になってくること。
53　実施前の指導。やらされているという意識にならないための指導。
54　施設にお勤めされている方に学校にきていただき，事前学習を行っている。事前に学習することで当日不安に思う生徒が少なくなっているのではないか。

55　お一人暮らしのお年寄りを、コミュニティースクールなどに協力をいただきながら探しているが、なかなか情報が得られず、３～４名のお宅を訪問している。また、受け入れの可否については個々のお考えがあり、むやみに訪問できない難しさもある。

56　相手の状況をよく理解して、企画・実践しなくてはならないので時間的にも余裕をもって実施する。（時間の確保が課題）また、相手を思って考えたことであっても、予想外の反応が返ってくることがあるので、その際の子どもたちの気持ちのケアも大事する必要がある。

Ｑ５

設問１以外の取組で、H28 年度から今年度に実施（予定含む）した福祉に関する取組＊があれば教えてください。

＊福祉に関する取組：総合的な学習の時間等で、福祉・健康を主な探究課題として設定した取組

１　４学年の総合的な学習の時間で、点字体験（点字を読む・打つ・盲学校の子どもたちが使用している教科書を見せていただくなど）や白杖・アイマスク体験に取り組んでいる。
２　クラブ活動（ニュースポーツクラブ）で、ボッチャ、車椅子バスケットボールなどの体験を行っている。
３　運動会、音楽会にグループホームや社会福祉施設の方々を招待している。
４　ボランティア委員会が、近くの老人施設に交流に行った。
５　国語で点字を学習、アイマスク体験
６　認知症サポーター講座の実施、クラブ活動での外部講師の取り組み
７　参観日に来られたお年寄りの方々に呼びかけをして、「カフェ」を開き、子ども達が店員となってコーヒーなどを振る舞った。
８　エコキャップの収集を全校に呼びかけて、仕分けしリサイクル業者に渡している。・リサイクルに出せないキャップを使って「ダメキャップアート」を作成し、二学期に児童会祭り
９　赤い羽根募金、書き損じはがき集めを全校に呼びかけて、取り組む予定。
10　地域の老人をお招きしての地域の方から学ぶ会（地域の老人の方を講師として，ご自分の特技を児童に紹介し，体験する取組）
11　アイマスク体験または視覚障がい者の方をお招きしての講話等
12　ろう学校の友達との交流　毎年実施
13　地区の老人会との交流
14　チェアスキーの選手の講演会
15　パラスポーツであるシッティングバレーの体験
16　点字実習として、講師をお呼びして点字プレートを使って点字を打つ学習を行ってきている。
17　児童会のボランティア委員会の活動の１つで、年間通して資源回収を全校で取り組み、その報奨金で購入した車いすを「車椅子贈呈式」において、贈呈している。
18　「認知症サポーター講座」に地域の皆さんと参加している。
19　お茶のみサロンと称して、地域のお年寄りを学校に招き、風船バレーなどのゲームをしたり、組み体操やダンスを見ていただき、いっしょに給食を食べた。

20　視覚障がい、聴覚障がいのある方に学校にお越しいただき、どのように工夫しながら生活しているか、どんなサポートをしてもらいたいか等についてお話をお聞きした。
21　特別支援学級の児童が工作を教えに行ったり一緒に遊んだりして交流した。
22　学級単位での幼稚園・保育園児童との交流。学級の児童の祖父母との交流など。
23　地区の保護士からの要請で、地域を明るくする作文コンクールに応募している。
24　日本ゴールボール協会の元日本代表によるゴールボール体験と講演会。
25　学校周辺の高齢者や雪かきのできない人で、社協に登録している家を訪問し雪かきをする。
26　総合的な学習の時間を使って，各自の健康についての課題解決学習を全校で行っている。
27　地域の社会福祉協議会主催の「サマーチャレンジボランティア」に多くの生徒が参加をし、病院や保育園、福祉施設などでボランティア活動を行った。